

# オンライン授業の問題点の解明

## Clarifying the Problems of Online Classes

阿部和也<sup>†</sup> 宮川裕之<sup>†</sup>  
 Kazuya Abe<sup>†</sup> Hiroyuki Miyagawa<sup>†</sup>

<sup>†</sup> 青山学院大学 社会情報学部

<sup>†</sup> School of Social Informatics, Aoyama Gakuin University.

### 要旨

2020年新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響によりオンライン授業が急速に普及した，オンライン授業では，学生が授業内容を理解しているか把握しづらい，課題量が多い等の問題が表面化している．本研究では，学生である著者がオンライン授業受講生に対してアンケートやインタビュー調査を行うことで，調査者と被調査者との心的バリアを低め，オンライン授業の真の問題点を明らかにすることを目的とする．現在インタビュー調査を行っているところで，今後は調査結果をもとに，学生の学習態度，授業方式等から学生の行動や思考について分析し，オンライン授業の在り方を考察する．

## 1. 国内大学におけるオンライン授業の現状

### 1.1. COVID-19の影響により急速に普及したオンライン授業

2020年2月以降，日本においてもCOVID-19が蔓延し，同年4月には政府から緊急事態宣言が発令された．感染拡大防止のため，「移動の制限」や「不要不急の外出自粛」が政府や自治体から呼びかけられるようになり，大人数での集会を避けなければならない状況になった．

これに伴い，全国の大学でも感染拡大防止のため，授業のオンライン化が急速に進められた．2020年5月時点で，約97%の大学においてオンライン授業もしくは，対面・オンラインの併用が実施されており，表1の通りである[1]．また，オンライン授業を実施し始めた時期については，2020年3月以前が4.2%に対し，2020年4月～5月は93.7%と急増している[2]．今後もソーシャルディスタンスを確保するための人数制限なしには，これまでのような教室での対面授業の実施は難しく，人数と教室規模，そして授業内容に合わせたオンライン授業との組み合わせが必要になってくる可能性がある．

表1 2020年5月20日時点における全国の大学の授業の実施方法

	対面授業	対面・オンラインを併用	オンライン授業
国立大学	0校	8校 (9.3%)	78校 (90.7%)
公立大学	0校	7校 (8.4%)	76校 (91.6%)
私立大学	26校 (4.1%)	44校 (6.9%)	568校 (89.0%)
高等専門学校	1校 (1.7%)	0校	56校 (98.2%)
(全体)	27校 (3.1%)	59校 (6.8%)	778校 (90.0%)

### 1.2. オンライン授業に関する教員・学生の状況

2020年度前期から多くの大学においてオンライン授業が開講される中，各大学ではオンライン授業に対する学生へのアンケートが数多く実施されている．オンライン授業には「通学する必要がない」，「自分のスケジュールに合わせて視聴できる」等，対面授業には無いメリットがある一方，「長時間PC，タブレット，スマホ画面を見るので疲れる」，「モチベーションの維持が難しい」等の問題が浮き彫りとなった[3]．また，学生だけではなく大学の教員も「カメラをオフにされるとパソコンに向かって一人で喋っている形になるのでペース配分等が難しい」，「学生の理解度が表情から読めない」等，慣れ親しんでいないオンライン授業に苦戦している．

## 2. 本研究における学生の本音を引き出すための調査

### 2.1. 調査目的

先に述べた通り、オンライン授業にはメリットがある一方で課題もみられる。本調査ではさらに、オンライン授業を「リアルタイム型授業」、「オンデマンド型授業」に分類し、より粒度を細かくオンライン授業の現状を明らかにすることを目的とする。オンライン授業を受講する学生に対して、同じ学生の立場である筆者がインタビュー調査を行い、心的バリアを低くし、学生の本音を引き出すことで明らかにする。

### 2.2. 調査方法

本調査では、2020年10月15日～10月19日にかけて、青山学院大学社会情報学部2～4年生5人を対象に、同大学で実施されている、「リアルタイム型授業」、「オンデマンド型授業」についてZoomを用いたインタビューを行った。なお、本稿で用いる「リアルタイム型授業」とは、決められた曜日・時限にインターネットを通じ、教員と学生をつなぐことで講義やゼミが行われる授業形態、「オンデマンド型授業」とは、教員が作成した授業動画ファイルを、学生がいつ視聴するか比較的自由に決められる授業形態と定義する。

少ないサンプル数でなるべく幅広く意見を抽出するため、有意抽出法を用いた。本調査では、大学の授業について「真面目に受講している」と思う方か、「単位さえ取得できれば良い」と思う方かという価値観を事前にヒアリングし、「真面目に受講している」と回答した学生3人、「単位さえ取得できれば良い」と回答した学生2人に対し、半構造化インタビューを行った。なお、学生の本意を引き出すため、匿名で実施した。なお、分析手法としてM-GTAを利用している。

### 2.3. 調査結果

#### (1) 「単位さえ取得できればいい学生」と「真面目に受講している学生」の共通点

単位さえ取得できればいい学生と真面目に授業に取り組む学生のオンライン授業の受講態度にいくつかの共通点が見られた(表2)。リアルタイム型においては、教員とのインタラクティブな会話がある授業や、ミーティング中にビデオをオンにする授業では、教員への受け答えの準備や、他の受講生や教員の視線を感じることで、集中して受講する傾向がある。逆に授業中教員が一方的に講義をする授業や、ミーティング中ビデオをオフにする授業では、授業に参加している気がしない、他者からの視線が無いことから授業以外のことをする、聞き流すといった傾向が見られた。オンデマンド型においては、倍速視聴により短時間で集中して終わられるという意見がある一方、リアルタイム型同様、他者からの視線が無いことにより、受講態度が悪くなるという面が見られた。また、時間的制約が無いことから、締め切り間際の受講や受講のし忘れ等が起こりやすい。

表2 「単位さえ取得できればいい学生」と「真面目に受講している学生」の受講態度に関する共通点

	リアルタイム型	オンデマンド型
受講態度が良くなる要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中、教員と学生の間でインタラクティブな会話がある</li> <li>オンラインミーティング中、自身の顔を映るようにビデオをオンにする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>倍速視聴すれば、短時間で終わらせられる</li> </ul>
受講態度が悪くなる要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業中、教員との会話が授業中一切ない</li> <li>オンラインミーティング中、自身の顔を表示しない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者からの視線がない</li> <li>受講する場所が良くない</li> </ul>

#### (2) 「単位さえ取得できれば良い学生」と「真面目に受講している学生」の違い

対面と比較した時の各オンライン授業方式の印象は、「単位さえ取得できれば良い学生」と「真面目に受講する学生」で考えの相違が見られた(表3)。

「真面目に受講する学生」は授業の質や空気感に重点を置いている。リアルタイム型授業は、コミュニケーションのとりづらさや音割れ、映像の乱れによる受講のしづらさなどが問題と感じており、もしそれが解決出来たとしても、対面授業の学習の場としての空気感を好む傾向にあった。オンデマンド授業に関しては、対面授業やリアルタイム型と比較して、サボりやすく授業以外のことをしてしまうことがあるが、倍速視聴で短時間集中して受講する、不要な部分を飛ばして受講する等、工夫しながら効率的に学習している。

一方「単位さえ取得できれば良い学生」はいかに楽に単位を取得できるかを重点に置いている。リアルタイム型でも一方向に講義する方式であれば、対面授業と同様に興味のあるところだけを聞いているので、対面とあまり違いを感じないという解釈であった。またオンデマンド型はリアルタイム型以上にサボりやすく、課題がだされたとしても、繰り返し再生が可能のため、注意深く聞いていないという傾向があった。「単位さえ取得できればいい学生」にとっても、楽に単位を取得できるオンデマンド型を好む意見が見られた。

表3 対面授業と各オンライン授業方式の印象の比較

	インタラクティブな会話があるリアルタイム型	一方的に教員が講義するリアルタイム型	オンデマンド型
真面目に受講する学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に集中はしやすくなった</li> <li>・コミュニケーションがしづらくなった</li> <li>・音割れ、映像の乱れがある分対面より受けづらくなった。</li> <li>・対面とさほど変わらないが、変わらないなら対面の方がよい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集中力が落ちやすい</li> <li>・音割れ、映像の乱れがある分対面より受けづらくなった。</li> <li>・資料が見つらなくなった</li> <li>・ライブ感が無くてつまらなくなった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面、リアルタイム型よりも授業以外のこととしてしまう</li> <li>・倍速視聴すれば短時間で終わられるため、集中力を維持しやすい</li> <li>・他の学生に見られないので質問がしやすい</li> </ul>
単位さえ取得できれば良い学生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サボりづらくなった</li> <li>・真面目に受講するようになった</li> <li>・教員の質問に答えられるように準備した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サボりやすく、楽になった</li> <li>・対面同様、課題に関連しそうな部分、興味が沸く所だけ話を聞いた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対面、リアルタイム型よりもサボりやすい</li> <li>・繰り返し再生できるため、注意深く聞いていない</li> <li>・倍速視聴すれば対面より早く終わらせられる</li> </ul>

### 3. 青山学院大学社会情報学部の公式アンケート結果との比較

青山学院大学社会情報学部で行われた公式アンケート結果では、オンライン授業と教室での授業でどちらが熱心に学習するかという質問がされ、「オンラインの方が熱心に学習する」と回答した学生が79人、「教室の方が熱心に学習する」が109人と「教室の方が熱心に学習する」方がやや多いものの、二つに分かれた結果となっている(図1)。しかしながら本研究のインタビュー調査から、インタラクティブな会話があるリアルタイム型、一方的に講義するリアルタイム型、オンデマンド型で、真面目に受講す

る度合が変わっている傾向があるため、オンラインと対面という大きな枠だけでは、判断できない可能性がある。今後これらのオンライン授業の方式を追加したアンケートを実施し、学生がどの授業方式で熱心に学習するのか調査する必要がある。

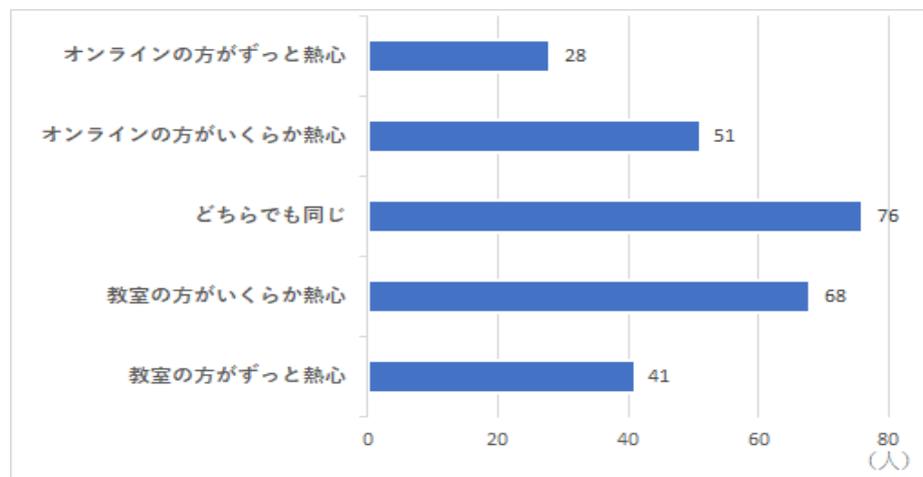


図1 オンライン授業と教室での授業どちらが熱心に学習するか (N=263)

#### 4. まとめ

本研究のインタビュー調査から、リアルタイム型授業は真面目に受講する学生において対面授業と比較して評価が良くないことが分かった。今後もコロナ禍が続く状況では、全面的に対面授業に戻すことは難しいと予想されるため、オンライン授業もしくは、オンライン授業と対面授業の併用で授業を行う可能性がある。今後リアルタイム型授業を実施するにあたっては、その授業が本当にリアルタイム型にする必要があるのか吟味する必要がある。リアルタイム型で実施する場合には、学生の集中力を維持するために、学生に自身の顔をミーティング中表示させる、教員が学生に授業に関するクイズを出す等、一定の緊張感をもたせることが必要となると考えられる。

#### 5. 今後の展望

本研究で実施したインタビュー調査では、サンプル数が少なく回答が偏る可能性が考えられるため、引き続きインタビュー調査を実施する必要があると考える。今回の調査では、対面授業と比較するため2～4年生を対象に調査を行っていたが、2020年度に入学した1年生にもインタビュー調査を行うことで、「課題のやり方がよくわからない」、「友人が出来ない」等、新たな意見を引き出せる可能性がある。

#### 参考文献

- [1] 文部科学省, 新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況, (参照 2020-11-16). [https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt\\_kouhou01-000004520\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200527-mxt_kouhou01-000004520_3.pdf)
- [2] eラーニング戦略研究所, 大学におけるオンライン授業の緊急導入に関する調査報告書, 2020.
- [3] Center for Teaching and Learning, 2020年春学期オンライン授業に関する学生アンケートまとめ, (参照 2020-11-16). <https://sites.google.com/info.icu.ac.jp/onlineclass-j/home>